

大阪産業大学 成績評価基準のガイドライン

制定日 2018年12月12日

平成29年3月の教学マネジメント委員会で定めました大阪産業大学のアセスメント・ポリシーに基づき、開講するすべての科目について、「成績評価基準」と、成績評価基準に用いる評価項目の尺度（ルーブリック）を統一したガイドラインとして定めます。

I. 大阪産業大学 アセスメント・ポリシー（平成29年3月教学マネジメント委員会）

少子高齢化とそれに伴う生産年齢人口の減少、グローバル化や情報化の進展、産業構造の変化等、現代社会は複雑・多様化しています。そのような社会を力強く生き抜くことができる人材を育てるために、これからの大学教育においては、従来の「知識・理解」の教授だけではなく、論理的思考力、数量的スキル、問題解決力といった「汎用的技能」を養い、『知識・理解を活用する力』を育む必要があります。また、それとあわせて、協調性、自己管理能力、倫理観、生涯学習力といった「態度・志向性」を養い、高い『人間力』を身に付けさせる必要もあります。

本学は、国際学部、スポーツ健康学部、経営学部、経済学部、デザイン工学部、工学部、人間環境学部（募集停止）など、様々な専攻分野の学問を教授する学部を擁していますが、先に述べた「汎用的技能」や「態度・志向性」は、学問分野を問わず、すべての学士課程修了者が身に付けるべき共通のものであります。

したがって、今後の本学の学士課程教育においては、【現代社会を力強く生き抜く力】を、学生の卒業時に求める全学共通の学習成果と定め、それを支える『知識・理解を活用する力』と『人間力』の基礎となる「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」といった様々な能力を、アクティブラーニングを基軸とした新たな形態の教育によって養い、それらを適正かつ厳格に評価するための尺度（ルーブリック）を開発・運用し、教育の質保証に努めます。

II. 成績評価基準（従来通り）

全学的な成績評価基準は以下の通りとします。

| 成績評価 | S（秀） | A（優） | B（良） | C（可） | D（不可） |
|------|--------|-------|-------|-------|-------|
| GP | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| 適用点 | 100～90 | 89～80 | 79～70 | 69～60 | 59～0 |
| 単位 | 合格 | | | | 不合格 |

GP : Grade Point

適用点 : テスト、小テスト、レポート等の点数

なお、成績評価はその他に、「*」: 定期試験を受けなかった、授業欠席が多かったなど、成績評価の段階まで至っていない場合の評価、「T」: 他校での科目を認定する場合の評価があります。

Ⅲ. 評価方法

すべての授業科目について、評価項目によって成績評価を行います。評価項目は、文部科学省が参考指針として示す「学士力」（別添1参照）をもとに、以下の4項目の内、「1. 知識・理解」、「2. 汎用的技能」及び「3. 態度・志向性」について、評価の割合（評価を与える重み）を示して学生の成績を評価します。

1. 知識・理解
2. 汎用的技能
3. 態度・志向性
4. 統合的な学習経験と創造的思考力（上記3項目の総合的な評価項目）

（1）手順

開講する全ての授業科目について、達成目標と評価項目を定め、コモンルーブリックで評価します。手順は以下のとおりです。

- (1) 授業の目的から達成目標を設定する。
- (2) 授業の評価項目を設定し、成績評価基準の割合（重み）を決定する。
- (3) 学科のシラバスチェックの後、シラバスを公開する。
- (4) 授業を実施する。
- (5) コモンルーブリックによって評点を決定し、評点の平均値を計算し、成績評価基準から成績評価（GP）を決定する。

（2）コモンルーブリック

| 評価項目 \ 評点 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|-----------|-----------------------------------|-------------------------------|----------------------------|--------------------------------|-----------------------------|
| 知識・理解 | 知識を修得し、授業内容を理解するレベルを超えたレベルに達している。 | 知識を修得し、授業内容を理解する十分なレベルに達している。 | 知識を修得し、授業内容を理解するレベルに達している。 | 知識を修得し、授業内容を理解するレベルにおおよそ達している。 | 知識を修得し、授業内容を理解するレベルに達していない。 |
| 汎用的技能 | 身につける汎用的技能のレベルを超えたレベルに達している。 | 身につける汎用的技能のレベルに十分に達している。 | 身につける汎用的技能のレベルに達している。 | 身につける汎用的技能のレベルにおおよそ達している。 | 身につける汎用的技能のレベルに達していない。 |
| 態度・志向性 | 身につける態度・志向性のレベルを超えたレベルに達している。 | 身につける態度・志向性のレベルに十分に達している。 | 身につける態度・志向性のレベルに達している。 | 身につける態度・志向性のレベルにおおよそ達している。 | 身につける態度・志向性のレベルに達していない。 |

(3) 成績評価方法

学生の成績評価は、以下の方法で計算します。なお、成績評価の根拠となる資料は一定期間、担当教員が適切に保管してください。

評点の平均値 = (「知識・理解」評点×割合 (%) + 「汎用的技能」評点×割合 (%) + 「態度・志向性」評点×割合 (%)) ÷ 100

| GP | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|----------|
| 評点の平均値 | 4.000～3.500 | 3.499～2.500 | 2.499～1.500 | 1.499～1.000 | 1.000 未満 |

* 割合の合計は 100%とします。なお、一つの評価項目を 100%としても構いません。

* 「知識・理解」では、試験、小テスト、レポート等の評価手段を「成績評価基準・方法」に示し、その割合を示してください。

IV. シラバス「成績評価基準・方法」への記述の具体例

(1) 定期試験のみで評価する科目

知識・理解 (100%) (定期試験 100%)

(2) 定期試験、小テスト、レポートで評価する科目

知識・理解 (100%) (定期試験 50%、小テスト 20%、レポート 30%)

(3) 演習科目や実験科目など定期試験がない科目

知識・理解 (50%)、汎用的技能 (30%)、態度・志向性 (20%)

知識・理解 (60%)、汎用的技能 (40%)

以上